

みなかみ町は総面積（78,108 ヘクタール）の約 90%が森林に覆われている。その森林地の大半は国によって管理されているが、私有地については、放置されて伸び放題になった在来種の落葉樹がその大半を占めている。

近代技術が導入される以前は、食糧採集、狩り、薪集めが日々の生活の中心で、毎日の料理や暖房には、近くにあるような薪ストーブが使われていた。しかし現在では、ほとんどの住宅が電気製品を使うようになったため、森との密接な関係性は失われてしまった。

定期的に間伐を行わないと、森は木々が生い茂って暗くなり、低木や草が育ちにくくなる。その結果、重要な被食動物である野ウサギやネズミの食べ物や居住可能空間が不足してしまう。やがて、土壌の表面自体から吸収力が失われてひどく削られ、地滑りの危険性が高まる可能性もある。

森を健全に保つため、みなかみ町ではかつての小規模林業への回帰を模索している。2016 年には、町が地域住民を対象に基本的な伐採技術を教えるトレーニングコースを初めて開講した。自営業者たちによる小規模で持続可能な伐採を行うことで、この地域の野生生物の生息地とコミュニティの安全の両方を守っていくことが可能となる。